

第3回静岡市文化振興審議会

日時:令和7年1月22日(水) 午前10時00分～
会場:上下水道局庁舎 7階 71会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

・第2期静岡市文化振興計画 前期実施計画 令和5年度事業実施評価総括について

3 事務連絡

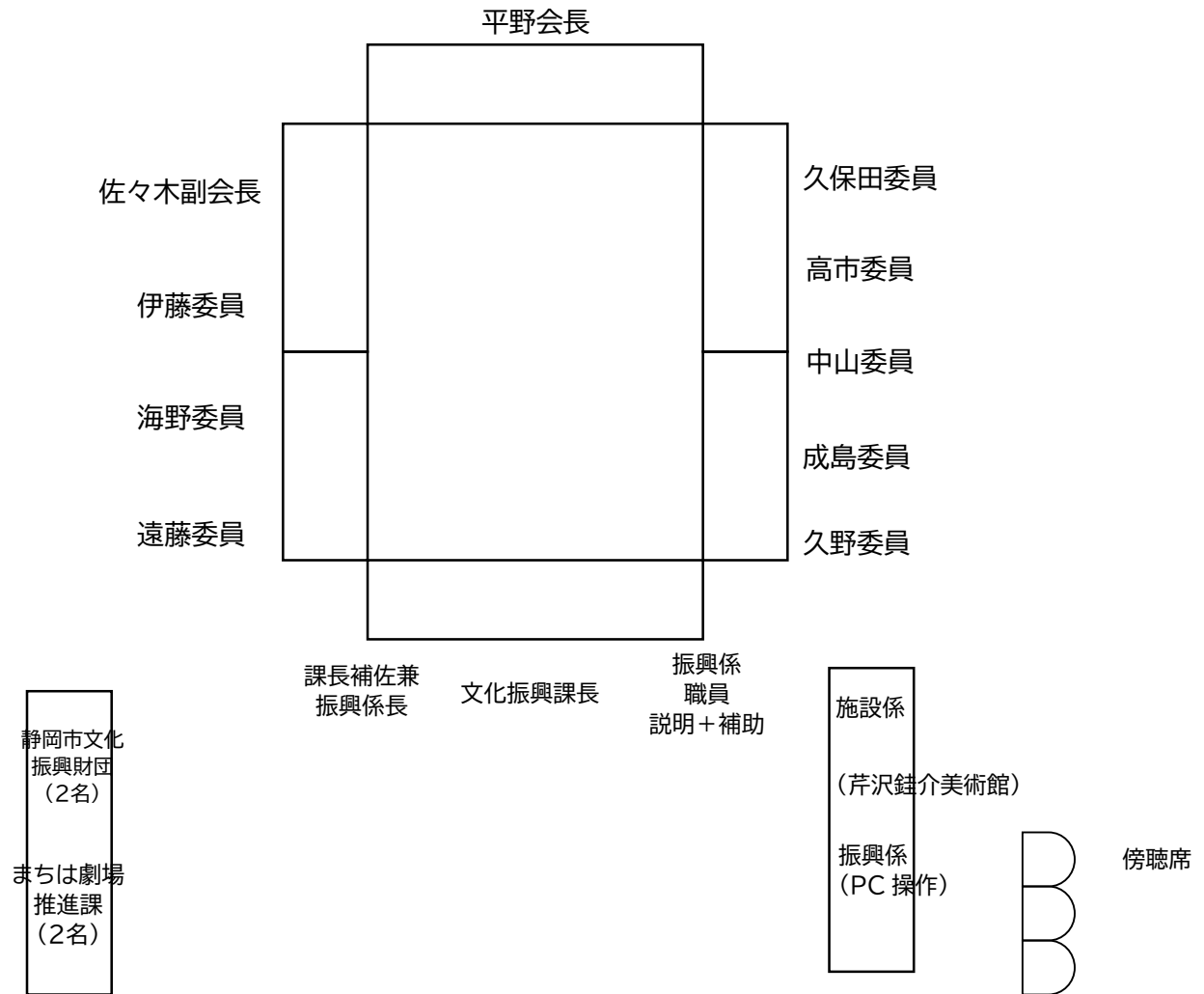
4 閉 会

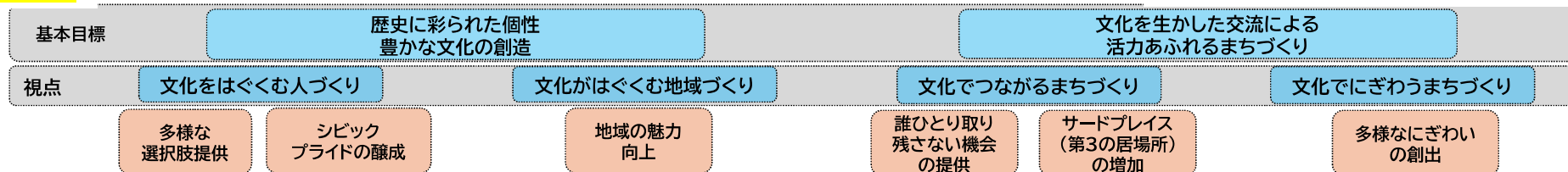
静岡市文化振興審議会 委員名簿

	氏名	役職等	第3回出欠席
会長	ひらの まさひこ 平野 雅彦	元静岡大学 特任教授・客員教授	○
副会長	さ さ き まさゆき 佐々木 雅幸	大阪市立大学名誉教授 一般社団法人創造都市研究所代表理事	○
	いとう かおり 伊藤 香織	東京理科大学 創域理工学部 教授	○
	うんの としひこ 海野 俊彦	静岡市文化協会 会長	○
	えんどう じろう 遠藤 次朗	特定非営利活動法人 アートコネクトしずおか 理事	○
	く ぼ た ゆたか 久保田 隆	静岡商工会議所 観光・飲食部会部会長 (株)浮月 取締役会長	○
	たかいち よしゆき 高市 純行	静岡市美術館館長	○
	なかやま えり 中山 絵理	市民委員	○
	なるしま ようこ 成島 洋子	(公財)静岡県舞台芸術 センター芸術局長	オンライン
	ひさの たかこ 久野 貴子	市民委員	○

第3回 静岡市文化振興審議会

令和7年1月22日(水)10:00 から
上下水道局庁舎 7階 71会議室





評価できる点

◆静岡市美術館で行われた「さくらももこ展」は想定の2倍以上の観客を動員し、地元の人々に愛されていることを感じた。今後も、地元出身のアーティストや静岡にゆかりの深い人材を活用し、シビックプライドの醸成に繋げていきたい。

◆静岡まつりや清水みなと祭り、安倍川花火大会、大道芸ワールドカップなど市民が運営主体となって行われる事業が、コロナ禍からの復活を伺うことができ、地域への愛着心がより大きなものになったと評価できる。

◆旧エンバーソン住宅や静岡市役所本館などの有形文化財をフィルムコミッション事業を通じてロケ地として貸し出し、活用・発信する取り組みは、市内外へのアピールにもなり評価できる。

◆2023年にグランドオープンした歴史博物館は、市民、とりわけ子ども達に地域の歴史を学んでもらう最適な場所となっている。学芸員の「マニアックトーク」や「分かりやすい歴史・地域のおはなし」は実施回数も多く、固定ファンもできているため、今後も地道な活動を継続してほしい。

◆こども園・学校訪問コンサート、文化芸術アウトリーチ事業は、文化芸術の魅力に触れる「きっかけ」のない子どもたちへ文化を届けることに静岡の文化発展への意義を感じる。市内の若手演奏者や学生など県内の人材を積極的に活用して継続してほしい。

◆静岡わいわいワールドフェアやアウトリーチ事業、ラウドヒル計画など多様化する市民構造に対応した事業は評価できる。また、これまで集団を基礎とした文化活動に馴染めなかった人達や、新しく静岡市民となった外国人などが、活動する場を提供できるよう、積極的に取り組みを継続してほしい。

◆「世界大会」を掲げ、清水をその聖地とする先進的な取り組みを行う富士山コスプレ世界大会や、静岡のローカルフードをテーマにしたおでん祭りなど、様々な視点でにぎわいを創出していることは、評価できる。

◆第81期将棋名人戦や第78期囲碁基本因坊戦など本市にゆかりの深い徳川家康公に絡めて行ってきた事業は、地域文化の振興と歴史資源を県内外にアピールする機会に寄与したとして、評価できる。

改善すべき点・今後の事業に期待すること

◆「大神楽祭2024」は当日の雨で来場者が大幅に減ったことが要因の1つではある。とはいえ「伝統文化寺子屋」など、静岡の民俗芸能に対する市民の関心の薄さが伺える結果となっていることを危機感と捉え、取り組みを検討していくことが望ましい。

◆各課において様々な事業を実施しており、多様な機会と選択肢を提供している。事業のより効率的かつ効果的な実施に向け、民間事業者で実施する芸術文化体験やサービスとバランスを取り、本市の特色を活かした持続可能な取り組みとしていく視点も必要である。

◆ホビーのまち推進事業は、今後、世界的にも注目が集まる視点であり評価したい。深堀して静岡の歴史・文化への興味関心が広がるよう商業的な流れにも繋げ、しずおか文化発信力の強化と地域づくりとなることを期待したい。

◆文化財の修復や整備などの過程を公開し、文化観光として捉えていくとともに、文化財の魅力について語ることのできる人材を育成していくため、積極的なアピールを行っていくことを期待する。

◆ラウドヒル計画は、事業を安定的に継続していくための土台づくりや出演者一人ひとりが活動の幅を広げ、更に新しいチャレンジを展開できるような仕組みづくりに期待したい。誰もが参加可能な文化事業の代表として、社会情勢に適応した取り組みを率先して行っていくことが必要である。

◆親子を対象とした事業は、親の関心が薄いと子どもが参加できないため、学校のような子どもが集まる場所を介すなどして広くターゲットに情報を発信していくことが望ましい。

◆令和5年度大河ドラマ「どうする家康」関連事業では、歴史博物館を中心に「歴史×静岡市」をアピールできる機会であった。静岡市として、SNS等を活用した戦略的な広報や協働の視点で、好機を逃さない取り組みが必要である。

◆富士山世界遺産の構成資産を有する静岡市として、海外プロモーション事業には特に重点を置き実施していくことが求められる。イベント単体ではなく、地域そのものの魅力とつながったプロモーションに期待する。

全体評価

◆第2期静岡市文化振興計画がスタートして初年度となる令和5年度の文化事業は、コロナ禍が明け、市民が主役となる文化事業が活気を取り戻し、中心市街地では歴史博物館がグランドオープンするなど新たな「しずおか文化」の創造に期待のかかる1年となった。

第2期静岡市文化振興計画におけるビジョンのもと、今後の文化事業の展開に求められる要素を以下のとおり整理して総括としたい。

①誰もが参加可能な文化事業の展開

誰もが参加可能な文化事業をより一層推進していくため、文化事業の内容・方法の多様化を図るとともに、対面で実施する文化事業に加え、オンラインや仮想空間を通じて参加できる文化事業の展開に期待したい。「外に出ること」や「集団の中に入っていくこと」に抵抗のある層が文化に触れる機会から乖離してしまうことのないよう、内容・方法・空間という3つの視点で取り組みを検討していくことが望ましい。

②静岡にゆかりのある人材や地域資源を活用した「しずおか文化」の発信

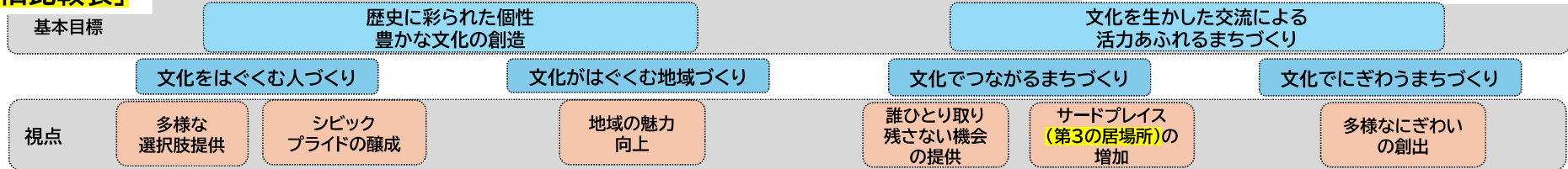
令和5年度における文化事業では、静岡市美術館で行われた「さくらももこ展」の開催やアウトリーチ事業における地元オーケストラの活用など、地域にゆかりのある人材や地域資源を活用した事業が多く実施された。各種事業において、また、各文化施設における企画展等において引き続き地域にゆかりのある人材を積極的に活用する取り組みを継続していくとともに、民間事業者等と協働し、多角的な視点で地域資源にスポットを当て、「しずおか文化」の魅力発信とシビックプライドの醸成に繋げていくことを期待する。

【新旧比較表】

第2期静岡市文化振興計画 前期実施計画 令和5年度評価総括書

【資料2】

2025.1.22 第3回静岡市文化振興審議会



評価できる点

◆静岡市美術館で行われた「さくらももこ展」は想定2倍以上の観客を動員し、地元の人々に愛されていることを感じた。今後も、地元出身のアーティストや静岡にゆかりの深い人材を活用し、シビックプライドの醸成に繋げていきたい。

◆静岡まつりや清水みなと祭り、**ストレンジランド**、大道芸ワールドカップなど**市民が運営主体**となって行われる事業が、コロナ禍からの復活を伺うことができ、地域への愛着心がより大きなものになったと評価できる。

◆旧エンパーソン邸や静岡市役所本館などの有形文化財をフィルムコミッション事業を通じてロケ地として貸し出し、活用・発信する取り組みは、市内外へのアピールにもなり非常に評価できる。

◆2023年にグランドオープンした歴史博物館は、市民、とりわけ子ども達に地域の歴史を学んでもう最適な場所となっている。学芸員の「マニアックトーク」や「分かりやすい歴史・地域のおはなし」は実施回数も多く、固定ファンもできて**おり、地道な活動**を継続してほしい。

◆誰もが参加可能で、静岡文化を創り上げてきた「ラウドヒル計画」のような取り組みは中長期的な取り組みとして継続できていることが評価できる。

◆静岡わいわいワールドフェアやアウトリーチ事業、ラウドヒル計画など多様化する市民構造に対応した事業は大変評価できる。また、これまで集団を基礎とした文化活動に馴染めなかった人達や、新しく静岡市民となった**海外の人**などが、活動する場を提供できるよう積極的に取り組みを継続してほしい。

◆令和元年度からスタートした静岡市プラモデル計画事業は、モニメントも順調に増設が進み、県内外への話題性も充分である。プラモデルのまち「静岡」をPRする一翼を担っていることを評価したい。

◆第81期将棋名人戦や第78期囲碁基本

◆「世界大会」を掲げ、清水をその聖地とする先進的な取り組みを行う富士山コスプレ世界大会や、静岡のローカルフードをテーマにしたおでん祭りなど、様々な視点でにぎわいを創出していることは、評価できる。

改善すべき点・今後の事業に期待すること

◆「大神楽祭2024」は当日の雨で来場者が大幅に減ったことが要因の1つではある。とはいえ「伝統文化寺子屋」など、静岡の民俗芸能に対する市民の関心の薄さが伺える結果となっていることを危機感と捉え、取り組みを検討していくことが望ましい。

◆各課において様々な事業を実施しており、多様な機会と選択肢を提供しているが、すべてを総花的に展開するより、行政主導と民間主導の違いに基軸を絞るという視点も必要である。一方で、民間事業者の芸術文化体験やサービスとバランスを取りつつ、協働し持続可能な取り組みとしていく視点も重要である。

全体評価

◆第2期静岡市文化振興計画がスタートしてグランドオープンするなど新たな「しずおか」第2期静岡市文化振興計画におけるビジョンのもと、今後の文化事業の展開に示す方向性や課題を整理して総括したい。

①誰もが参加可能な文化事業の展開
誰もが参加可能な文化事業をより一層推進していくため、文化事業の内容・方法の多様化を図ることはもちろんのこと、対面で実施する文化事業と**オンラインや仮想空間を通じて参加できる文化事業のように「リアル」と「仮想」といった「空間」の選択に着目した文化事業の展開に期待したい。**「外に出ること」や「集団の中に入っていくこと」に抵抗のある層が文化に触れる機会から乖離してしまうことのないよう、内容・方法・空間という3つの視点で取り組みを検討していくことが望ましい。

②静岡にゆかりのある人材や地域資源を活用した「しずおか文化」の発信

令和5年度における文化事業では、静岡市美術館で行われた「さくらももこ展」の開催やアウトリーチ事業における地元オーケストラの活用など、地域にゆかりのある人材や地域資源を活用した事業が多く実施された。各種事業において、また、各文化施設における企画展等において引き続き地域にゆかりのある人材を積極的に活用する取り組みを継続していくとともに、民間事業者等と協働し、多角的な視点で地域資源にスポットを当て、「しずおか文化」の魅力発信とシビックプライドの醸成に繋げていくことを期待する。

◆ホビーのまち推進事業は、今後、世界的にも注目が集まる視点で**あり評価したい。**深掘りして静岡の歴史・文化への興味関心が広がるよう商業的な流れにも繋げ、しずおか文化発信力の強化と地域づくりとなることを期待したい。

◆文化財の修復や整備などの過程を公開し、**観光ツール**として捉えていくとともに、文化財の魅力について語ることでできる人材を育成していくため、積極的なアピールを行っていくことを期待する。

◆子ども園・学校訪問コンサート、文化芸術アウトリーチ事業は、文化芸術の魅力に触れる「きっかけ」のない子どもたちへ文化を届けることに静岡の文化発展への意義を感じる。市内の若手演奏者や学生など県内の人材を積極的に活用して継続してほしい。

◆いずれの企画も回数や開催日数が限られているが、ニーズに応じて様々な場所で継続し、日常的に実施されていくことで、サードプレイスの創出につながっていくことを期待する。

◆訪問コンサート事業においては、市内の若手演奏者や学生など県内の人材を広く積極的に活用していくことが望ましい。

◆親子を対象とした事業は、親の関心が薄いという声があるが、子どもが主体的に参加できるような取り組みを期待する。

◆ラウドヒル計画は、事業を安定的に継続していくための土台づくりや出演者一人ひとりが活動の幅を広げ、更に新しいチャレンジを展開できるような仕組みづくりに期待したい。誰もが参加可能な文化事業の代表として、社会情勢に適応した取り組みを率先して行っていくことが必要である。

◆歴史博物館では、すでにいくつもの協働の視点で取り組みを行っているが、企画展においては「歴史×〇〇」の発想で、新しい歴史を紡いでいくことを期待する。

◆富士山世界遺産の構成資産を有する静岡市として、海外プロモーション事業には特に重点を置き実施していくことが求められる。

◆令和5年度大河ドラマ「どうする家康」関連事業では、歴史博物館を中心に「歴史×静岡市」をアピールできる機会であった。静岡市として、SNS等を活用した戦略的な広報や協働の視点で、好機を逃さない取り組みが必要である。